

亀裂構造と政党制

概念整理と新興民主主義国への適用

はざま
間
やすし
寧

はじめに 社会集団区分の相対化
亀裂の定義 属性、価値、組織
亀裂議論と先進民主主義国 体制下部構造の歴史的形成
新興民主主義国 亀裂反映の弱さと包括政党の優位
おわりに 開発途上国分析に向けて

はじめに 社会集団区分の相対化

開発途上国研究において、民族や宗教などの社会的差異は紛争の要因として注目を集めてきた^(注1)。しかし「民主化の第三の波」以降、開発途上国において民主主義国が増加すると、これら諸国が民主主義体制、特に政党制をどのように制度化させていくかという点に関心が集まった。開発途上国の政党制において、民族、宗教、言語、階級・所得、文化、地域などの社会集団区分は、政治制度、特に政党制にどのように反映され、取り込まれ、あるいは封じ込められているのだろうか。またまたある社会集団区分を、他の社会集団区分よりもあえて重要視する必要はあるのだろうか。これらの問いを考える上で重要なのが亀裂(cleavage)の概念である。亀裂は上述の社会集団の差異を包括的に含む概念で、社会集団区分の政治的重要性を相対的に論じることができるという利点を持つ。

本稿は、開発途上国における亀裂構造と政治体制を研究するための準備作業のひとつで、新興民主主義における亀裂構造と政党制についての統合的レビュー^(注2)の予備的試みである。最大の関心対象は開発途上地域を中心とする新興民主主義国であるが、理論的に重要な研究の多くが先進国を事例に行われているため、文献の重要性に応じて先進国事例も含めた。対象文献は、過去約30年間の英文の図書および学術雑誌論文のなかで、亀裂(cleavage)を題名または主題のひとつとしたもの、亀裂と明示しなくても階級、民族、宗教・宗派、言語的な差異を総合的に分析したもの、から選んだ。ただし、新興民主主義国を亀裂という視点から分析した研究、なかでも理論的な結論を導き出しているものは非常に少ないため、実証的知見(empirical findings)をできるだけ多く網羅することにした。以下では、まず亀裂の定義を扱った後、先進民主主義国、そして第2次世界大戦以降に民主化した新興民主主義国における、亀裂構造と政党制についての先行研究の主要な知見をまとめ、最後に、暫定的な結論を提示する。

もちろん、政党制は亀裂のみにより規定されているわけではない。社会構造以外の制度的要因も政党制に大きな影響を与える^(注3)。また、国家対社会関係において社会の力が弱いと、政

治体制が亀裂を意図的あるいは偶然に作り出すあるいは強調する場合もある。ただし本稿は上記2点の可能性を含めた上で、分析の視点として亀裂と政党制に着目すると、亀裂が政党制をどの程度規定しているかという分析方法が、その逆の関係より圧倒的に多く採られていることを確認した。なお、ここでは実証政治学で一般的になされるように、民主主義を手続的民主主義 (procedural democracy) ないし選挙民主主義 (electoral democracy) と捉え、定期的に競争的で公正な普通選挙が行われている国を民主主義国と操作的に定義する [Dahl 1971; Diamond 1999]。

亀裂の定義 属性、価値、組織

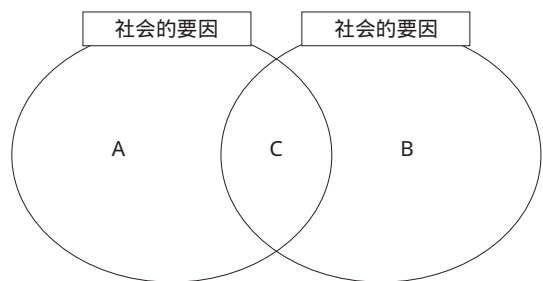
幾度も指摘されているように、亀裂研究の先駆者であるリップセット (Seymour M. Lipset) とロッカ (Stein Rokkan) は亀裂を明示的に定義しなかった [Flora 1999, 34]。また、その後の研究者たちが亀裂を定義したが、これらの定義は必ずしも整合的ではない [Römmele 1999]。定義のみならず、名称でも、これまで「亀裂」、「社会的亀裂」、「政治的亀裂」という名称が用いられてきた。「社会的」、「政治的」という形容が付くか付かないか、あるいはどちらが付くかは概念定義に必ずしも関係していない。しかも、同一文献のなかで複数の表現が同義的に用いられている場合もある (表1)。

ただし、これまでの亀裂の概念化の試みは、2点に要約できる。第1に、亀裂に関する議論が精緻化する過程で、亀裂の定義は規範的 (prescriptive) ないし本質論的 (essentialist) 定義から記述的 (descriptive) ないし唯名論的

(nominalist) 定義に移行してきた^(注4)。リップセットとロッカは、何を持って亀裂とするかという記述的な定義をしていないが、亀裂の存在を所与とした上で亀裂がどのような機能を持つかを詳細に説明している。読者はここからある程度、亀裂の本質論的定義を読み取れる^(注5)。

第2に、亀裂のこれまでの定義は社会的要因 (民族、宗教・宗派、階級などの客観的な社会人口学的属性) と政治的要因 (イデオロギーなどの価値観および投票や組織活動などの政治行動) の含み方があいまいだった結果、図1が示すようにおおむね3種類の定義があった。社会的要因または政治的要因 (A + B)、政治的要因 (B + C)、社会的要因および政治的要因を同時に (C)、それぞれ含んでいることを要件とするものがある。さしあたりここでは、を最小条件定義、を政治的定義、を最大条件定義と呼ぶ。このように多様化した定義のうちどれが使われるかは、研究者が何を説明しようとするかに規定されてきた^(注6)。政治的現象を亀裂で説明しようとする場合は社会的要因を含む定義

図1 亀裂の定義の構成要素



出所) 表1より筆者作成。

注) 最小条件定義 = A + B

政治的定義 = B + C

最大条件定義 = C

社会的要因: 民族、宗教・宗派、階級などの客観的な社会人口学的属性。

政治的要因: イデオロギーなどの価値観、および投票や組織活動などの政治行動。

表1 亀裂概念定義の精緻化

文献	名称 ⁽¹⁾	範疇 ⁽²⁾	定義 ⁽³⁾	概念機能
Dahl (1966a, 48-59; 1966b, 61-371; 1971, 105-123; 1973, 4-10)	C	'	対立勢力を両極化させる軸*	政治体制を規定
Lipset and Rokkan (1967)	C	'	国民国家建設と産業革命の過程で形成される社会勢力の対立軸*	政党制を規定
Rae and Taylor (1970, 1)	P/C		共同体構成員を区分する基準(属性, 意識, または行為上)。重要な政治的差別化をもたらすものを顕著な亀裂(relevant cleavages)と呼ぶ	尺度
Zuckerman (1982, 131)	P		広範で持続的な政治的分裂(divisions)。社会・経済的分裂を反映する。	尺度
Dalton, Flanagan, Beck (1984)	S		Lipset and Rokkan(1967)とInglehart (1984)	政党制を規定
Inglehart (1984)	P		集団と政策・政党の間の支持関係の安定的分極パターン	社会経済的構造を反映
Lane and Erssen (1987, 39) ⁽⁴⁾	C	'	対立が起こりうる, 個人, 集団, または組織上の区分	政党制を規定
Bartolini and Mair (1990)	C		社会人口の属性, 集団意識, および組織的閉鎖性を持つ	政党制を規定
Gallagher, Laver, and Mair (1992)	C		Bartolini and Mair (1990) に同じ	
Knutsen and Scarbrough (1995)	C		Bartolini and Mair (1990) に同じ	
Kitshcelt (1999)	P/C		構造的かつ持続的社会区分に依拠する政治的差異	政党制を規定・反映 政党制を規定
Moreno (1999)	P		Bartolini and Mair (1990) に同じ	

出所) 筆者作成。

注) (1) Cはcleavages, Pはpolitical cleavages, Sはsocial cleavagesが名称として使われていることを意味する。

(2) は最小条件定義, は政治的定義, は最大条件定義。(')は顕在的また潜在的な対立(conflict)を生じさせることを条件とする。

(3) (*) 明示的定義が無いため, 内容から判断。

(4) 第4版 [Lane and Erssen 1994, 41] でも同じ定義がされている。

[Dalton, Flanagan, and Beck 1984; Bartolini and Mair 1990; Gallagher, Laver, and Mair 1992; Knutsen and Scarbrough 1995; Kitschelt 1999; Moreno 1999]が、政治的現象としての亀裂を説明する[Inglehart 1981; Inglehart 1984, Abramson and Inglehart 1995; Inglehart 1997]あるいは計測する [Rae and Taylor 1970; Zuckerman 1982]^(注7) 場合は政治的あるいは少なくとも政治的要素を含んだ定義が必要になり、実際にそれらが用いられてきた(表1)。

概念上の混乱にそれなりの理由はあったのだが、混乱自体は望ましいことではない。加えて、

と の定義にはこれまで批判があった。 の最小条件定義を用いた場合の問題は、社会経済上あるいは政治上のどのような違いでも亀裂となりうることである。民族、言語、所得、階級、政治的イデオロギーなどどれでもひとつが違っただけで亀裂が生じているとすると、亀裂の概念はあまりに漠然となる^(注8)。 の政治的定義の代表であるInglehart (1984) は現代西欧の亀裂では階級的亀裂よりもむしろ価値的亀裂(「物質主義」対「脱物質主義」)が重要性を増していると主張した。ただし、Inglehart (1984) は政治的分極化を「亀裂」と定義している(「亀裂」が被説明変数になっている)ため、価値的亀裂とは実は(必ずしも社会構造との関連を条件としない)^(注9) 政治的意見の違いである。そのためこの「亀裂」概念で政治現象を説明すると同語反復に陥ることになる。

ところで最小条件定義や政治的定義に対する批判を交えながら亀裂に関する研究が積み重ねられるにつれその定義は精緻化され、多くの研究者に共有されるようになった。そして1990年代半ば以降、研究の大半は、亀裂が(1)社会人口

的属性、(2)集団意識や価値、(3)組織的閉鎖性を共有すること(つまり の最大条件定義)でほぼ一致するようになった。

この最近の定義で特徴的なのは(3)である。(1)と(2)を共有していてもそれが固定化、組織化されなければ集団行為につながりにくいからである。1990年代の議論[Bartolini and Mair, 1990; Knutsen and Scarbrough 1995; Kitschelt 1999; Moreno 1999]では の組織の例に労働組合、教会、政党、任意団体などがあげられている。ここで政党を含めることは、政党制との議論で必ずしも同語反復にならない。組織は亀裂を構成する要素のひとつでしかないからである。むしろ、亀裂が政党制を規定することの部分的な証左となりうる。そもそも、亀裂と政党制の関係の議論の中心は、個々の亀裂と個々の政党との結びつきではない。その関係の存在を前提した上で、主要な亀裂が何であり、それらが政党の合従連衡をどのように規定しているかである^(注10)。すなわち、現在支配的なこの定義によれば、亀裂とは社会的階層化・差別化の単なる結果ではない。社会構造上の差異はそれが組織化されて「閉鎖化」(固定化)されたときにのみ亀裂に転化するのである[Bartolini and Mair 1990, 216]^(注11)。

亀裂議論と先進民主主義国 体制下部構造の歴史的形成

亀裂の政治社会学的分析の先駆者はリップセツトとロッキン [Lipset and Rokkan 1967] である。彼らは亀裂が西欧の政党制に与えた影響を歴史的かつ各国横断的に分析した。本稿にとって重要なのは、西欧で生じた亀裂が具体的に何かというよりは、その形成過程に関する3つの

分析視点である。それは、(1)複数の亀裂が各国固有の歴史的条件により形成されること、(2)それぞれの亀裂の政治的重要性が歴史的に変化すること、(3)亀裂が政党制を(広い意味では政治体制を)規定することである。彼らはこの分析視点を以て、西欧で16世紀以降に形成された諸亀裂が、選挙権が19世紀以降拡大する過程で^(注12)政党制に反映されていったことを明らかにした。具体的には西欧において、(1)国民国家建設過程で「中央対周辺」亀裂および「国家対教会」亀裂という2つの文化的亀裂が^(注13)、産業革命過程で「都市対農村」亀裂および「資本対労働」亀裂という2つの機能的亀裂が、それぞれ形成されたこと、(2)選挙権が拡大するごとに新たな亀裂を反映する政党配置が生じたこと、(3)1960年代の政党制は1920年代の亀裂構造を反映したまま凍結していること(凍結仮説)、(4)各国の差異は「資本対労働」以外の亀裂の相対的強さにより説明されること(1920年代以降は「資本対労働」以外の亀裂のなかで最も強いのはどの国でも同じなので)、などである。

Lipset and Rokkan (1967) の分析枠組み、つまり社会的構造が政党制を規定するという考えは、発表から40年近くたった現在でも政党制分析の基本であるが、彼らの具体的な仮説については異論も唱えられた。典型的には、彼らの凍結仮説に疑問を持つ論者が、1960年代末以降、亀裂構造が変化していることを強調した。彼らはその原因として、社会のブルジョア化、社会的流動性の高まり、大衆社会化、共同体統合、有権者の認知・判断能力向上、政党制の老化、価値変化などを挙げた [Dalton, Beck, and Flanagan 1984]。Franklin et al. (1992) は、西民主主義国において、亀裂が政党選択に重要

でなくなりつつあることを見いだした。さらに彼らは、左派政党への投票を投票行動変化の尺度とすると、亀裂・政党関係と投票行動変化の間の関係に異なるパターンがあることを指摘した。亀裂と政党制の関係が依然として強い国は、あまり大きな投票行動変化を経験しなかったのに対し、上記の関係が弱くなっている国では、他の変数の重要性が増すことにより、大きな投票行動変化が起きたという。Ersson and Lane (1998) と Lane and Ersson (1999, chap. 4) も、1990年代の西欧における投票行動の流動化が、凍結仮説を反駁したと結論づけた。代わって、彼らは浮動有権者層の重要性を指摘した。より理論的な論点で Mair (1993; 2001) は、Lipset と Rokkan が凍結を所与と捉え、1920年代以降なぜ凍結が続いたかに関心を払わなかったと批判した^(注14)。

先進国におけるこれまでの議論は凍結仮説に集中しすぎた観があるが、これ以外にも重要な視点がある。たとえば亀裂の深さや数と政党制の関係である。Bartolini and Mair (1990) は、深い亀裂が投票流動性(2つの連続した選挙の間に有権者が支持政党を変える傾向)を抑えることを示した。亀裂の強さを各国別に4変数(民族・言語多様性、宗教多様性、左派政党党员比率、労働組合集約率)の合成指標で測ると、その強さは投票流動性と負の相関関係にあった。これは、投票者の集団帰属意識が強いほど支持政党を選挙ごとに変えにくいからであるとされた。スイスにおいて各カントン(州)の政党数が都市化度や宗派多様性が高いほど多いことも、亀裂と政党との有意な対応関係を示している [Vatter 2003]。また別の視点として、政党制の変化を亀裂のみで説明しようとすることに対する批判も存在す

る。投票者は実際に亀裂を反映する政党が存在しなければ「政党選択権」を行使できないからである。Graaf, Health, and Need (2001) は、1970年代から90年代にかけてのオランダでは階級的投票行動の低下は長期趨勢的な社会的要因に帰せられるものの、宗派的投票行動の低下はキリスト教党派政党の合併およびカトリック教徒の政党帰属意識の低下という政治的要因により生じたことを明らかにした^(注15)。

新興民主主義国 亀裂反映の弱さと包括政党の優位

リップセットとロッカンの亀裂議論は新興民主主義国に適用範囲が広げられた。その背景にあるのは民主主義の定着への関心である^(注16)。民主化の第三の波で確かに民主主義国の比率は上昇したものの、他方で不安定な民主主義の体制を持つ国の比率も高まったからである。Jagers and Gurr (1995) によれば、これら「未定着民主体制」国^(注17)の比率は1975年に5パーセント、1985年に4パーセントだったのが、1994年に13パーセントに上昇している。政党制の観点からは、明確な政策綱領と選挙公約に基づいた政党間競争の存在が、民主主義の定着に貢献するとの考えがある。党首の個人的魅力や特定支持勢力への利権配分に依拠する政党間競争(および選挙)だと、民主主義の統治機能および正統性を低下させることになるからである [Kitschelt 1995, 449-451; Mainwaring 1999, 4-6]。

新興民主主義における政党制の分析でもリップセットとロッカンの理論が出発点になっているが、この分野での研究は2つに大別できる。ひとつはリップセットとロッカンの個別の仮説

(凍結仮説や4つの亀裂の存在)が新興民主主義に当てはまらないことを主張するもの、もうひとつは彼らの諸仮説のそのままの適用をそもそも考えず、代わりに彼らの論理を利用しているものである。

まず個別仮説を批判したものでは、Geddes (2003, chap.4) は、Lipset and Rokkan (1967) が分析の対象から(その選択基準を満たしていたにも拘わらず)はずしたラテンアメリカや東欧諸国について、凍結仮説が当てはまらないことを実証的に示した。これら18カ国のうち13カ国で、民主化直後の普通選挙時に存在していた政党が現在消えつつある(その合計得票率が25パーセント未満)。またRandall (1999) は、亀裂の持つ役割が西欧のそれと異なるために、Lipset and Rokkan (1967) による政党制と亀裂の関連づけが、第三世界の政党制を分析する上で不適当であると論じた^(注18)。個別の亀裂についても、たとえば韓国において[Park 2002], 民主的選挙の時に現れた亀裂は、地域主義だった。政党は離散集合しても、政治指導者・政治家は強い地域的支持基盤に支えられていた^(注19)。また民主化の過程では、(潜在的亀裂として)「民主化」対「現状維持」という対立軸があった。

ただし、Randall (1999) が批判した点の多くは、彼女がLipset and Rokkan (1967) の分析結果をそのまま第三世界の政党制の実態に当てはめようとしたことに起因している。第三世界政治の分析のために重要なのは、Lipset and Rokkan (1967) の枠組みであり、結果ではない。具体的にどのような亀裂が存在するか、それがどのような機能を持つかはLipset and Rokkan (1967) がまさに主張したようにその国の歴史的発展経緯に依存するために個別的議論である。

より重要なのは、(1)亀裂が歴史的に形成される、(2)亀裂の重要性が時間とともに変化する、(3)亀裂構造が政党制を規定するという命題である(注20)。

実際、新興民主主義についての大半の研究はリップセットとロッキンの個別仮説でなく分析枠組みに注目した。そして以下に見るように、(再)民主化後も亀裂を個別に反映する政党制が形成されず、代わりに複数の亀裂を取り込んだ包括政党(注21)が支配的であることを明らかにした。たとえば1970年代の新興民主主義国(ベネズエラ、コスタリカ、ジャマイカ、インド、スリランカ、マレーシア、トルコ、ポルトガル、ギリシャ)の26の政党のうち17が不均質政党(heterogeneous party、包括政党と同義)で、(何らかの亀裂に依拠する)凝集的政党(cohesive party、亀裂政党と同義)は9しかなかった[Özbudun 1987]。

政党制における亀裂投影の不鮮明さと包括政党優位の理由は、地域的な違いもあるため一般化することは難しいが、既存研究からは以下の4つの理由が浮かび上がる。初めの2つは亀裂構造側の要因(亀裂の性質および数)、残りの2つは政治制度側の要因(憲法体制と体制転換)に、より強く規定されている。第1には、労働者階級の不均質性により、機能的亀裂、特に資本対労働亀裂が発生しにくいことである。ラテンアメリカでは、西欧とは異なり、農業の次に製造業ではなくサービス産業が発達し、大規模な工業労働者階級は生まれなかった。労働者層は事務職員や季節労働者をも含む多様な大衆から成り、これら勢力を取り込むために包括政党が発達したため、亀裂構造自体がそもそも不鮮明だった[Dix 1989](注22)。ただし工業化が比較的進んだチリと(より限定的ながら)アルゼンチンは例外

的である。チリでは、世俗・宗教的亀裂がすでに1850年代半ばに政党制に顕在化した。さらに階級的亀裂が都市部では1920～30年代までに、農村部では1950年代までに政党勢力構図に定着した[Scully 1995]。アルゼンチンで1940年代半ば以降に顕在化した階級的亀裂は、同国の政党制が二大政党化した大きな理由である[McGuire 1995](注23)。

第2に、はっきりとした亀裂が存在していても、亀裂構造が細分化している場合である。アフリカでは一般的に、民族に依拠する亀裂が多すぎるゆえに政党制では個々の亀裂は見えにくくなる。Horowitz(1985, chap 8)は、(1)民族政党政治は(多党間で始まっても)2党間の競争になりやすいこと、(2)それはさらに民族政党間の緊張を高めやすいこと、(3)民族間の緊張が高まると支配政党が、政治的安定を真の目的にあるいはそれを野党抑圧の口実として、単一政党制へ移行しやすいこと(たとえばガイアナ、シエラリオーネ、コンゴ、トーゴなど)を示した。Mozaffar, Scarritt, and Galaich(2003)は民族的亀裂があまりに多いとこえて亀裂内・亀裂間連合が必要になるために、政党制に収斂的傾向が現れる(政党制の分裂傾向が弱まる)ことを、アフリカの新興民主主義国34カ国の合計62選挙データをもとに示した。

第3に、ラテンアメリカに多く見られる大統領制が政党制の制度化を阻んでいることである(注24)。与党(大統領の政党)は必ずしも議会の過半数を握れず、しかも議会は小党分裂しがちである[Linz 1990; Mainwaring 1990]。このため、与党も野党も議会政治を通じて亀裂次元の経済利害や価値を政策に反映する機能が、議院内閣制に比べて弱い。このような状況だと政治

は、大統領対反対勢力という二元的対立に陥りやすい。ペルーにおいては、政党制の崩壊（1990年）も再生（2001年）も、亀裂や選挙制度の変化ではなく、政治エリートの汚職に対する有権者の反発により引き起こされてきた [Kenney 2003]。一党優位制期のメキシコにおいても、投票行動を決定するのは現政権に対する評価（懲罰的投票行動）であり、亀裂は二次的な重要性しか持たないことが個票データから明らかにされた [Dominguez and McCann 1995]。

第4には、過去の新民主主義体制の残存的影響である。アフリカやラテンアメリカに比べて東欧では、（政党制にはあまり反映されていなかったが）共産化以前にはっきりと集約された亀裂が存在した（注25）。しかし第1次、第2次世界大戦およびその後の共産化により、既存の亀裂構造や政党制が破壊された（注26）。民主化後は旧亀裂構造が復活せず、新しい亀裂もはっきりとは現れてもいない [Lawson 1999]。大規模なエリート、大衆調査に依拠する Kitschelt et al. (1999, chap. 8) は、チェコ、ポーランド、ハンガリー、ブルガリアの4カ国研究では、政治的区分 (divisions) は生じたがそれは社会人口的属性との結びつきが弱いために亀裂と言えるほど構造化、永続化していないと主張した。ロシア、リトアニア、ウクライナでは、議会選挙データからすると、党派性、政党帰属意識、政党と争点の間の整合性がいずれも急速に高まったものの、これら諸国の政党制は、社会各層を反映するような個別的亀裂ではなく、旧体制支持対改革支持という（集約的な）包括的な対立軸（注27）に依拠している [Miller, Erb, Reisinger, and Hesli 2000]。World Values Survey データを用いた Moreno (1999) も、ラテンアメリカや東欧など

の新興民主主義国諸国での主要な対立軸が（注28）、民主主義・権威主義、政治経済改革・現状維持、進歩・保守（注29）であることとした（注30）。

新興民主主義国において包括政党が支配であることの政治的な原因として、上述の既存研究で触れられていないのは、新興民主主義国の民主化過程である。「第1の民主化の波」で生まれた先進民主主義国では、まず政党間競争がエリート政党間で行われ（寡頭制民主主義）、その後、既存政党のなかで対立・分裂が生じると新興（反対）勢力が選挙権の拡大を求め、実現させてきた。その過程で、新規有権者の支持は新興勢力に向かう一方、旧主流勢力は既存支持基盤を固守した [Lipset and Rokkan 1967, 33-34]。このため、「選挙市場」の拡大部分を中心的支持基盤とする政党と、既存部分に依拠する政党の間の違いははっきりしていた。これに対し、第2、第3の民主化の波で生まれた開発途上国の民主主義では、すでに普通選挙権が存在するところに複数政党制が導入されたため、旧支配政党はもとより、新規参入政党も、選挙市場の一部分に特化せず（またはできず）市場全体を対象とする選挙戦略を持つことになる。あるいは支持基盤に違いがあるとしてもそれは、旧体制支持対旧体制反対という構図で、いずれにしても複数の亀裂を横断することになると考えられる（注31）。

ところで、亀裂反映の弱さと包括政党優位という新興民主主義国の政党制の特徴は、政党制発展上の遅れと必ずしも結びつけられない（注32）。旧共産圏でも東欧諸国が民主化後も（明確なイデオロギーを持ち個別的亀裂に依拠する）大衆政党を経験しなかったことを、Kitschelt (2001) は「後発の利益」と捉えている。西欧では大衆

政党が近年衰退したからである^(注33)。またインドにおいては近年、包括政党だった国民会議派の低落と同時に、亀裂が政党制に反映されるようになってきているが、これをもってのみ政党制の定着が進んだとは言い難い。インドでは社会集団の組織化が遅れていることや国家の社会・経済政策がかなり介入的であることから、亀裂と政党制の関係を政党制がより強く規定している。その結果、政党間対立が亀裂の緊張を高めることになったからである〔Chhibber 1999〕^(注34)。

おわりに 開発途上国分析に向けて

亀裂に関する研究は過去40年、リップセットとロッキンが提示した、(1)複数の亀裂が各国固有の歴史的条件により形成される、(2)それぞれの亀裂の重要性が歴史的に変化する、(3)亀裂が政党制を規定する、という分析枠組みを前提として積み重ねられた。その過程で亀裂の定義は精緻化され、多くの研究者に共有されるようになった。すなわち、1990年代半ば以降の研究の大半は、亀裂が「社会人口の属性、集団意識や価値、組織的閉鎖性を持つということ(最大条件定義)」で一致している。すなわち、現在支配的なこの定義によれば、亀裂とは社会的階層化・差別化の単なる結果ではない。社会的区分はそれが組織化され、固定化されたときにのみ亀裂に転化する。

亀裂議論は開発途上国を中心とする新興民主主義国に適用範囲が広げられた。民主主義の定着を中心とするこれらの研究の大半は、リップセットとロッキンの諸仮説のそのままの適用をそもそも考えず、代わりに彼らの分析枠組みを

利用した。その結果明らかになったのは、(再)民主化後も個々の亀裂をはっきりと反映する政党制が形成されず、代わりに複数の亀裂を取り込んだ包括政党が支配的であること、そして特に東欧(およびある程度ラテンアメリカについても言える)の再民主化諸国については、過去の非民主主義体制の影響が残り、それより前の民主主義体制や亀裂との繋がりが弱いことである。このように、先進民主主義国と同じ分析枠組みが採用されたことで、新興民主主義国の特質が明らかになった。

以上で示したように、新興民主主義国における亀裂と政党制についての実証研究は未だに不十分であるが、本稿が指摘した亀裂の定義の精緻化は、多様な開発途上国の政党制あるいは政治体制の分析に重要な分析視点を提示している。ある社会的属性の集団が共通の価値観を持つ共同体を形成している場合は(民族、部族、宗派など)、亀裂の発生に格好であるとともに開発途上国に多く見られる状況である。地域的に集中して居住する民族、家父長的支配下にある部族集団、同一の宗教・宗派の信徒からなる農村共同体や教団は(その組織により構成員を閉じこめる)閉鎖性を持っており、最大条件定義による亀裂の組織的条件を満たしているからである^(注35)。また他方、開発途上国に残る非民主主義体制が、(亀裂を構成する)既存の価値観や組織を破壊・非政治化することで、あるいは逆に新たなイデオロギーや動員構造を構築・政治化することで、亀裂構造を再編、操作しうることも、最大条件定義から演繹できよう。

(注1) ただし、議論は変遷している。より以前は、差別や不平等に起因する不満が民族・宗派的紛争をもたらすとする考えが強かった。その後、その原因以外

に、少数派指導者が少数派帰属意識を政治的動員に利用していることが指摘された（代表としてはGurr（1993）。さらに最近では、後者の考えの延長として、紛争を可能にする政治的機会が着目されている。Fearon and Laitin（2003）は1945～99年の161カ国のデータを用い、内戦の原因が、民族的あるいは宗教的な差異ではなく、ゲリラ戦を可能にする条件（国家の脆弱性とゲリラ側に有利な自然・社会的環境）であると結論づけた。ただし、分析単位の違いが異なる結論を生んでいる可能性も否定できない。集団を分析単位とする研究では集団の被差別感が説明力を持っていた〔Gurr 1993〕。これに対し紛争を分析単位とする研究では、実質的には国が単位であるために集団ごとの分析はできず、むしろ集団の置かれた環境（国）の特性（民族的均質性や所得分配など）が説明変数とされたが統計的に有意な結果は得られなかった〔Fearon and Laitin 2003〕。さらに、概念の操作化の違いも異なった結果を生む。言語の分裂度（fragmentation）を民族的均質性の指標としたCollier and Hoeffler（2001）やFearon and Laitin（2003）の研究は民族的均質性が内戦に影響を与えないとしたのに対し、Reynal-Querol（2002）は1960～95年の138カ国の民族的内戦の分析で、宗教および言語の両極度（polarization）を用い、民族的均質性が低いほど民族的内戦が起きやすいことを示した（なお、イデオロギー的・革命的内戦では民族的均質性の影響は認められなかった）。

（注2）統合的レビューはresearch synthesisやintegrative reviewと呼ばれる。それは実証研究に焦点を当て、（関連するかまたは同じ仮説を扱う）多くの個別調査から総合的な結論を導き出すことにより過去の研究を総括する〔Cooper 1998, 3〕。これ以外に、当該研究の既存研究での位置づけを明らかにする関連レビュー（context review）、特定の問題を時系列的に跡づける歴史的レビュー（historical review）、重要な理論を比較検討する理論的レビュー（theoretical review）、実証結果が方法論によりどのように異なるかを分析する方法論的レビュー（methodological review、統合的レビューの一種）などがある〔Neuman 2003, 97〕。

（注3）特に選挙制度が重要視される。たとえば

Lijphart（1990; 1994）、Rae（1971）、Sartori（1976）。

（注4）簡単に言えば、記述的ないし唯名論的定義とは辞書的な定義、規範的ないし本質論的定義とはその概念を所与として本質的な機能・特徴を明らかにするもの。この区分については、Pennings, Keman, and Kleinnijenhuis（1999: 60-61）参照。

（注5）「既存の概念が曖昧、用法に矛盾がある、あるいは異なる定義がされるなどの場合には慎重な規範的定義は極めて有効である」〔Pennings, Keman, and Kleinnijenhuis 1999, 62〕ことの一例と言える。

（注6）Bartolini and Mair（1990, 215）も、研究者の関心により、亀裂の定義は社会あるいは政治の方向に引きつけられたとしている。

（注7）Rae and Taylor（1970）は亀裂が社会をどのように分断するとともに亀裂が相互にどのように関連しているのかを考察するための尺度を理論的に構築することを目的にしていた。

（注8）最小限定定義の例としてはたとえば（資本家・労働者といった二元的区分に基づく）社会経済的背景と政党制の関係を扱う社会背景アプローチがある。Knutsen（1989）は西欧10カ国の政党制を説明するには上記の社会背景アプローチよりも（社会経済的変数を多次的に扱う）亀裂アプローチの方が優れていることを世論調査データを用いて明らかにした。

（注9）もちろんイングルハート（Ronald Inglehart）らは価値観変化の理由として、工業化による物質主義の恩恵を受けた世代・階層が脱物質主義を掲げていることを指摘しているが、このような世代・階層という社会的構造上属性を（価値的）亀裂の要件としているわけではない。

（注10）Lipset and Rokkan（1967, 34）は彼らの課題が、亀裂基盤（cleavage base）と政党配列（party constellations）の国別違いを説明する枠組みを提示することであると述べている。彼らは3つの歴史的転機における国別対応の違い、すなわち①宗教改革後に国家が教会を支配したか、それとも教会と連帯したか、②市民革命後の国家が教育機関の支配を確立できたかどうか、③産業革命初期において農村利益と新興商業・産業利益のどちらが優勢だったか、という点から、 $2 \times 2 \times 2$ の合計8つのパターンを明らかにした。

[Lipset and Rokkan 1967, 37-41]

(注11) Bartolini and Mair (1990, 216) は、亀裂を社会関係の閉鎖形態 (a form of closure of social relationships) と表現している。

(注12) 彼らの言うところの民主化で、Huntington (1991) の「民主化の第1の波」に当たる。

(注13) リップセットとロッカンの国民国家建国過程の説明はさらに細かい。中央が周辺に、国家が教会権力に浸透して行く過程で、周辺や教会の勢力がこれに反発して反対勢力となり、中央ないし国家との間に亀裂が形成された。個々の反対勢力は単独では弱かったが連合することにより対抗力を強め、ついには選挙での勝利により中央を支配することになった。

(注14) これに対し、この時期に政党再編が起きていないとする論者も少ないが [Gallagher 1992] また過去1世紀 (1885～1985年) という長期的な視点で見れば、西欧の政党制が安定していたと論じたのはBartolini and Mair (1990) である。上記の議論は凍結仮説について賛否いずれもが論理構築の点で、社会構造が政党制を規定するというLipset and Rokkan (1967) に依拠している。なお、亀裂が政党制に反映される結果、issue dimensionsが政党間の差異を表すという見方もある。Lijphart (1999, 78-79) はissue dimensionsとして、社会経済、宗教、文化・民族、都市・農村、体制支持、外交政策、脱物質主義を挙げた。

(注15) なお、本稿の主旨とはやや逸れるが、亀裂が深い社会において維持されている民主主義体制に着目したのがレイブハルトである。彼は多極共存型民主主義では大連合、少数派の拒否権、公職の比例配分、亀裂集団内部の自治、などに依拠するエリート間の協調により、亀裂上の対立が緩和されていることをオランダ、ベルギー、スイス、オーストリアなどの例を用いつつ政治体制として理論化した [Lijphart 1977; 1994; 1999]。彼の議論は体制への亀裂の現れではなく、対立回避のための政治制度に焦点が当たっていた。同様の文脈でKerr (1974) は、スイスにおいて深い亀裂が存在するにも拘わらず社会的調和が保たれている大きな理由として、国家建設および中央集権化が徐々に起きた (phasing) ために主な亀裂の相対的

重要性に浮沈があり、特定の亀裂をめぐる対立が恒常化しなかったこと、地方分権により政治権力が分散しているために、亀裂の影響が国内全体に波及しにくいこと、を挙げた。

(注16) 現在支配的な議論では、民主主義の定着は、簡単に言えばエリートと大衆の両方が民主主義制度を唯一のゲームのルールとして認めた状態を指す [Linz and Stepan 1996, 1-15]。ただしこの定義は、「ゲームのルール」が法的 (フォーマルな) 制度として確立されているのか、それとも非法的 (インフォーマルな) 関係に依拠しているのかが議論されていないことなどの点で批判もある (O'Donnell 1996)。インフォーマルに定着した民主主義体制をO'Donnell (1994) は委任型民主主義と呼んだ。

(注17) ガー (Ted Robert Gurr) らが作成したPolity データセットで国別政治体制の尺度である「民主体制」スコアから「独裁」スコアを差し引いた値が、7～10だと定着民主体制、1～6だと未定着民主体制、-6～0だと未定着独裁体制、-10～-7だと定着独裁体制と操作的に定義された。

(注18) 例として彼女は、(1)特にアフリカなどでは階級的亀裂が弱く、民族的、地域的亀裂が強いこと、(2)韓国では労働者階級が現れてもそれが労働者政党の形成に必ずしも繋がらないこと、(3)ジャマイカでは二大政党のイデオロギーと支持基盤が大きく揺れ動いてきたこと、(4)インドやアフリカでは国民国家形成期に多様な亀裂が (否定されずに) 国民政党に統合されたことなどを挙げた。彼女はこれ以外の理由としても大衆政党の欠如とクライアンテリズムの強さ、議会制の度重なる中断、国民統合未熟なうちの政党政治開始、植民地支配の残存効果など様々な違いを指摘した。

19議院内閣制のスペインでは、地域主義的亀裂が強いほど地方議会での政党の数が増える傾向が見られた [Penas 2004]。

(注20) 3つ目の命題に対してMainwaring (1999, 54-60) は、ラテンアメリカ諸国を例に、開発途上国では政党制度は国家により「上から」形成されると主張した。(手続的)民主主義体制下でも特定の政党が禁止または解党されたり、権威主義期エリートの保身のための制度が移行後の民主主義体制に残されていたりす

るためである。ただしこれだけで「下から」の政党制形成を否定するには不充分であろう。開発途上国では国家による介入にも拘わらず生き残ってきた政党（イスラーム政党や民族主義政党など）があることも事実である。

（注21）包括政党（catch-all parties）の名付け親は、キルチハイマー（Otto Kirchheimer）である。彼は、エリート政党（cadre parties）も大衆政党（mass membership parties）も、できるだけ多くの異なる集団の有権者集団を引きつけようとする傾向を強めていることを指摘した。包括政党の特徴として彼は、(1)政党のイデオロギー的装備の大幅な減少、(2)政党指導集団の強化、(3)個人党員の役割の低下、(4)支持者獲得で、特定の社会階層や宗派偏重をやめ、一般有権者を重視、(5)多様な利益団体との繋がりを確保、を挙げた [Bogdanor 1991, 76]。もちろん西欧においてもこの傾向は強まっている。西欧における包括政党は第2次世界大戦後に台頭した [Puhle 2002, 66-68]。

（注22）ラテンアメリカの包括政党のもうひとつの特徴は、それが（多様な）労働者層のみならず、中産階級からの支持をも得ていることである [Dix 1989]。

（注23）ラテンアメリカにおける代表的な亀裂をあえて取り上げるとすれば、「中心・周辺」亀裂であろう。「中央・周辺」亀裂は、政党・政党制の地域的差異に見ることができる。Jones and Mainwaring (2003) は、ジニー係数を用いてラテンアメリカの政党および政党制の全国化（nationalization）を計測し、連邦制国家ではそれが低いことなどを示した。

（注24）これら大統領制で典型的なのは、選挙での勝利（縦の説明責任）のみにもっぱら依拠し、立法府や司法府（横の説明責任）を軽視して強権的に統治する委任型民主主義（O'Donnell 1994）である。

（注25）主要な亀裂は、都市対農村亀裂（ブルガリア、チェコスロバキア）、世俗対宗教亀裂（チェコスロバキア）、宗派的亀裂（チェコスロバキア、ポーランド）、伝統対西欧化（ハンガリー、ルーマニア）、民族的亀裂（チェコスロバキア、ポーランド）、などである [Lawson 1999]。

（注26）ところで旧共産主義国についての特徴は、共産党ほど組織力を持つ政党が他の民主化諸国には見

られないことであり [Budge and Newton et al. 1997, 216]、その現体制への影響力は大きい。Kitschelt et al. (1999) は、民主化以前の政治体制上の差異が民主化後の政治経済的發展に影響を与えていることを発見した。Cotta (1994) は共産化以前と共産主義崩壊後の政党制の継続性・断絶性について考察し、西欧で非民主主義体制を経験した国の再民主化例に比べて東欧の再民主化においては、過去（の民主主義体制）との断絶性の方が継続性より強いことを指摘した。その理由は、最初の民主体制での政党制が未熟であったこと、西欧のファシズム政党と違い、東欧では共産党が再民主化後も完全には消えなかったことなどである。共産主義から体制移行後初の総選挙で勝利した野党は、共産主義体制下では野党としてではなく反体制派の社会運動として活動していた [Lewis 2001, 545-546]。

（注27）Miller, Erb, Reisinger, and Hesli (2000) および次のMoreno (1999) は実際には対立軸を亀裂と表現している（Moreno [1999] は、概念化の段階では最大条件定義を用いると言っておきながら、操作化では価値観や政治的立場を尺度として亀裂を規定している）。ところでこのような亀裂の政治的定義は、概念の引き伸ばし [Sartori 1970] のために議論を曖昧にさせる傾向もある。Geddes (1996, 32) は東欧における「亀裂」が、社会主義時代は「党特権階級対一般大衆」であり、民主化後は「資本対労働」よりも「凋落する公共部門対勃興する民間部門」であるというのに対し、Evans and Whitefield (1995) は個票データにもとづき、ハンガリーでは経済的「亀裂」（市場経済対国家介入経済）はむしろ弱く、宗教性、ジプシーへの民族的差別、民族主義など前近代的な文化的「亀裂」が支配的であると主張するなど、かみ合っていない。

（注28）他方、先進国では物質主義・脱物質主義の対立軸が認められるものの、最も大きな対立軸は左派・右派だった。

（注29）中絶反対、宗教性、民族主義により測られた。

（注30）これはつまりは「現状改革」対「現状肯定」にまとめられる。実はLipset (1988, 246-261) も、第2次世界大戦後第三世界の（民主的あるいは疑似民主的）諸国における亀裂は、「近代化勢力（＝改革派）対伝

統主義勢力 (= 保守派)」が主軸が中心であり、その構図は先進国における「左派 (= 改革派) 対右派 (= 保守派)」とほぼ一致すると捉えていた。

(注31) たとえばメキシコの国民行動党 (PAN, 2000年に初の政権交代実現) やトルコの民主党 (DP, 1950年に最初の政権交代実現) のように、農民と実業家を支持基盤とするハイブリッドな政党が生まれる。PANの支持基盤については、岸川毅氏 (上智大学助教授) の指摘による。

(注32) 先進民主主義国における一党優位制成立は、敗戦や国家建設などに伴う動員上の転機 (mobilizational crisis) により、主要な社会経済勢力の投票行動の大きな変化がおきたことを契機にしている [Pempel 1990, 341-344]。

(注33) その理由は、党組織が職業化して素人が排除されたこと、有権者が政策に是々非々で反応するようになり、クライエントリズム (利益供与・享受を介在とする主従関係) の効力が弱まったこととされる。

(注34) 1967年から1996年までにわたる13の、州別または全国規模の、エリートまたは一般大衆を対象にした調査データを用いている。

(注35) Bartolini and Mair (1990, 218) も、民族・言語的共同体または周辺の共同体に依拠する亀裂は、(階級的または宗教的 (世俗対信仰) 亀裂とは異なり) 全く閉鎖的な社会関係を容易に生み出すと指摘した。

文献リスト

< 英語文献 >

- Abramson, Paul R., and Ronald Inglehart 1995. *Value Change in Global Perspective*. Ann Arbor, MI: The University of Michigan Press.
- Bartolini, Stefano, and Peter Mair 1990. *Identity, Competition, and Electoral Availability: The Stabilisation of European Electorates 1885-1985*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Bogdanor, Vernon, ed. 1991. *The Blackwell Encyclopaedia of Political Science*. Oxford: Blackwell.
- Budge, Ian and Kenneth Newton, et al. 1997. *The Politics of the New Europe: Atlantic to Urals*. London: Longman.
- Chhibber, Pradeep K. 1999. *Democracy without Associations: Transformation of the Party System and Social Cleavages in India*. Ann Arbor, MI: University of Michigan Press.
- Cooper, Harris 1998. *Synthesizing Research: A Guide for Literature Reviews, 3rd ed.* Thousand Oaks, CA: Sage.
- Cotta, Maurizio 1994. "Building Party Systems after the Dictatorship." In *Democratization in Eastern Europe: Domestic and International Perspectives*. eds. Geoffrey Pridham and Tatu Vanhanen. London: Routledge.
- Dahl, Robert A. 1966a. "The American Oppositions: Affirmation and Denial." In *Political Oppositions in Western Democracies*. ed. Robert A. Dahl. New Haven, CT: Yale University Press.
- 1966b. "Some Explanations." In *Political Oppositions in Western Democracies*. ed. Robert A. Dahl. New Haven, CT: Yale University Press.
1971. *Polyarchy: Participation and Opposition*. New Haven, CT: Yale University Press.
1973. "Introduction." In *Regimes and Oppositions*. ed. Robert A. Dahl. New Haven, CT: Yale University Press.
- Dalton, Russell J., Paul Allen Beck, and Scott C. Flanagan 1984. "Electoral Change in Advanced Industrial Democracies." In *Electoral Change in Advanced Industrial Democracies: Realignment or Dealignment?* eds. Russell J. Dalton, Scott C. Flanagan, and Paul Allen Beck. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- Diamond, Larry 1999. *Developing Democracy: Toward Consolidation*. Baltimore: Johns Hopkins University Press.
- Dix, Robert H. 1989. "Cleavage Structures and Party Systems in Latin America." *Comparative Politics* 22(1): 23-37.

- Dominguez, Jorge I. and James A. McCann 1995. "Shaping Mexico's Electoral Arena: The Construction of Partisan Cleavages in the 1988 and 1991 National Elections." *American Political Science Review* 89(1): 34-48.
- Ersson, Svante, and Jan-Erik Lane 1998. "Electoral Instability and Party System Change in Western Europe." In *Comparing Party System Change*. eds. Paul Pennings and Jan-Erik Lane. London: Routledge.
- Esman, Milton J. and Itamar Rabinovich, eds. 1988. *Ethnicity, Pluralism, and the State in the Middle East*. Ithaca, NY: Cornell University Press.
- Evans, Geoffrey 1999. "Class and Voting: Disrupting the Orthodoxy." In *The End of Class Politics: Class Voting in Comparative Context*. ed. Geoffrey Evans. Oxford: Oxford University Press.
- Evans, Geoffrey and Stephen Whitefield 1995. "Economic Ideology and Political Success: Communist Successor Parties in the Czech Republic, Slovakia and Hungary Compared." *Party Politics* 1(1): 565-578.
- Fearon, James D., and David D Laitin 2003. "Ethnicity, Insurgency, and Civil War." *American Political Science Review* 97(1): 75-90.
- Flora, Peter ed. 1999. *State Formation, Nation-Building and Mass Politics in Europe: The Theory of Stein Rokkan*. with Stein Kuhnle and Derek Urwin. Oxford: Oxford University Press.
- Franklin, Mark 1992. "The Decline of Cleavage Politics." In *Electoral Change: Responses to Evolving Social and Attitudinal Structures in Western Countries*. Mark Franklin, et al. Cambridge: Cambridge University Press.
- Gallagher, Michael, Michael Laver, and Peter Mair 1992. *Representative Government in Western Europe*. London: McGraw Hill.
- Geddes, Barbara 1996. "Initiation of New Democratic institutions in Eastern Europe and Latin America." In *Institutional Design in New Democracies: Eastern Europe and Latin America*. eds. Arend Lijphart and Carlos H. Waisman. Boulder: Westview.
2003. *Paradigms and Sand Castles: Theory Building and Research Design in Comparative Politics*. Ann Arbor, MI: University of Michigan Press.
- Graaf, Nan Dirk De, Anthony Heath, and Ariana Need 2001. "Declining Cleavages and Political Choices: The Interplay of Social and Political Factors in the Netherlands." *Electoral Studies* 20(1): 1-15.
- Gurr, Ted Robert 1993. "Why Minorities Rebel." *International Political Science Review* 14(2): 161-201.
- Horowitz, Donald L. 1985. *Ethnic Groups in Conflict*. Berkeley: University of California Press.
- Huntington, Samuel P. 1991. *The Third Wave: Democratization in the Late Twentieth Century*. Norman, OK: University of Oklahoma Press.
- Inglehart, Ronald 1981. "Post-Materialism in an Environment of Insecurity." *American Political Science Review* 75(4): 880-900.
1984. "The Changing Structure of Political Cleavages in Western Society." In *Electoral Change in Advanced Industrial Democracies: Realignment or Dealignment?* eds. Russell J. Dalton, Scott C. Flanagan, and Paul Allen Beck. Princeton, NJ: Princeton University Press.
1997. *Modernization and Postmodernization: Cultural, Economic, and Political Change in 43 Societies*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- Jagers, Keith and Ted Robert Gurr 1995. "Tracking Democracy's Third Wave with the Polity III Data." *Journal of Peace Research* 32(4): 469-482.
- Jones, Mark P. and Scott Mainwaring 2003. "The Nationalization of Parties and Party Systems: An Empirical Measure and an Application to the Americas." *Party Politics* 9(2): 139-166.
- Kenney, Charles D. 2003. "The Death and Rebirth of

- a Party System, Peru 1978-2001." *Comparative Political Studies* 36(10): 1210-1239.
- Kerr, Henry H. Jr. 1974. *Switzerland: Social Cleavages and Partisan Conflict*. London: Sage.
- Kitschelt, Herbert 1995. "Formation of Party Cleavages in Post-Communist Democracies: Theoretical Propositions." *Party Politics* 1(4): 447-472.
2001. Divergent Paths of Postcommunist Democracies. In *Political Parties and Democracy*. eds. Larry Diamond and Richard Gunther. Baltimore, MA: Johns Hopkins University Press.
- Kitschelt, Herbert, et al. 1999. *Post-Communist Party Systems: Competition, Representation, and Inter-Party Cooperation*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Knutsen, Oddbjørn 1989. "Cleavage Dimensions in Ten West European Countries: A Comparative Empirical Analysis." *Comparative Political Studies* 21(4): 495-534.
- Knutsen, Oddbjørn, and Elinor Scarbrough 1995. "Cleavage Politics." In *Beliefs in Government Volume Four: The Impact of Values*. eds. Jan W. Van Deth and Elinor Scarbrough. Oxford: Oxford University Press.
- Lane, Jan-Erik, and Svante Ersson, 1987. *Politics and Society in Western Europe*. London: Sage.
1999. *Politics and Society in Western Europe*. 4th ed. London: Sage.
- Lawson, Kay 1999. "Cleavages, Parties, and Voters." In *Cleavages, Parties, and Voters: Studies from Bulgaria, the Czech Republic, Hungary, Poland, and Romania*. eds. Kay Lawson, Andrea Römmele, and Georgi Karasimeonov. Westport, CT: Praeger.
- Lewis, Paul G. 2001. "The Third Wave of Democracy in Eastern Europe: Comparative Perspectives on Party Roles and Political Development." *Party Politics* 7(5): 543-565.
- Lijphart, Arend 1977. *Democracy in Plural Societies: A Comparative Exploration*. New Haven, CT: Yale University Press.
1990. "The Political Consequences of Electoral Laws, 1945-85." *American Political Science Review* 84(2): 481-496.
1994. *Electoral Systems and Party Systems: A Study of Twenty-seven Democracies: 1945-1990*. Oxford: Oxford University Press.
1999. *Patterns of Democracy: Government Forms and Performance in Thirty-Six Countries*. New Haven, CT: Yale University Press.
- Linz, Juan J. 1990. "The Perils of Presidentialism." *Journal of Democracy* 1(1): 51-69.
- Linz, Juan J., and Alfred Stepan 1996. *Problems of Democratic Transition and Consolidation: Southern Europe, South America, and Post-Communist Europe*. Baltimore, MA: The Johns Hopkins University Press.
- Lipset, Seymour M., and Stein Rokkan 1967. "Cleavage Structures, Party Systems, and Voter Alignments: An Introduction." In *Party Systems and Voter Alignments: Cross-National Perspectives*. eds. Seymour M. Lipset and Stein Rokkan. New York: Free Press.
- Lipset, Seymour Martin 1988 (1970). *Revolution and Counterrevolution: Change and Persistence in Social Structures*. revised with a new introduction by the author. New Brunswick, NJ: Transaction.
- Mainwaring, Scott P. 1990. "Presidentialism in Latin America." *Latin American Research Review* 25(1): 157-179.
1999. *Rethinking Party Systems in the Third Wave of Democratization: The Case of Brazil*. Stanford, CA: Stanford University Press.
- Mair, Peter 1993. "Myths of Electoral Change and the Survival of Traditional Parties: the 1992 Stein Rokkan Lecture." *European Journal of Political*

- Research* 24(2): 121-133.
2001. "The Freezing Hypothesis: An Evaluation." In *Party Systems and Voter Alignments Revisited*. eds. Lauri Karvonen and Stein Kuhnle. London: Routledge.
- McGuire, James W. 1995. "Political Parties and Democracy in Argentina." In *Building Democratic Institutions: Party Systems in Latin America*. eds. Scott Mainwaring and Timothy R. Scully. Stanford, CA: Stanford University Press.
- Miller, Arthur H., Gwyn Erb, William M. Reisinger, and Vicki L. Hesli 2000. "Emerging Party Systems in Post-Soviet Societies: Fact or Fiction?" *The Journal of Politics* 62(2): 455-490.
- Moreno, Alejandro 1999. *Political Cleavages: Issues, Parties and the Consolidation of Democracy*. Boulder: Westview.
- Mozaffar, Shaheen, James R. Scarritt, and Glen Galaich 2003. "Electoral Institutions, Ethnopolitical Cleavages, and Party Systems in Africa's Emerging Democracies." *American Political Science Review* 97(3): 379-390.
- Neuman, W. Laurence 2003. *Social Research Methods: Qualitative and Quantitative Approaches*. 5th ed. Boston, MA: Allyn and Bacon.
- O'Donnell, Guillermo. 1994. "Delegative Democracy." *Journal of Democracy* 5(1): 55-69.
1996. "Illusions about Consolidation." *Journal of Democracy* 7(2): 34-51.
- Özbudun, Ergun. 1987. "Institutionalizing Competitive Elections in Developing Societies." In *Competitive Elections in Developing Countries*. eds. Myron Weiner and Ergun Özbudun. Durham, NC: Duke University Press.
- Park, Chan Wook 2002. "Elections in Democratizing Korea." In *How Asia Votes*. eds. John Fuh-sheng Hsieh and David Newman. New York: Chatham House.
- Pempel, T. J. 1990. "Conclusion: One-Party Dominance and the Creation of Regimes." In *Uncommon Democracies: The One-Party Dominant Regimes*. ed. T. J. Pempel. Ithaca: Cornell University Press.
- Penas, Ignacio Lago 2004. "Cleavages and Thresholds: The Political Consequences of Electoral Laws in the Spanish Autonomous Communities, 1980-2000." *Electoral Studies* 23(1): 23-43.
- Pennings, Paul, Hans Keman, and Jan Kleinnijenhuis 1999. *Doing Research in Political Science: An Introduction to Comparative Methods and Statistics*. London: Sage.
- Puhle, Hans-Jürge 2002. "Still the Age of Catch-allism? Volksparteien and Parteienstaat in Crisis and Re-equilibration." In *Political Parties: Old Concepts and New Challenges*. eds. Richard Gunther, Jose Ramon-Montero, and Juan J. Linz. Oxford: Oxford University Press.
- Rae, Douglas W. 1971. *The Political Consequences of Electoral Laws*. New Haven, CT: Yale University Press.
- Rae, Douglas W., and Michael Taylor 1970. *The Analysis of Political Cleavages*. New Haven, CT: Yale University Press.
- Randall, Vicky 1999. "Party Systems and Voter Alignments in the New Democracies of the Third World." In *Party Systems and Voter Alignments Revisited*. eds. Lauri Karvonen and Stein Kuhnle. London: Routledge.
- Reynal-Querol, Marta 2002. "Ethnicity, Political Systems, and Civil Wars." *Journal of Conflict Resolution* 46(1): 29-54.
- Römmele, Andrea 1999. "Cleavage Structures and Party Systems in East and Central Europe." In *Cleavages, Parties, and Voters: Studies from Bulgaria, the Czech Republic, Hungary, Poland, and Romania*. eds. Kay Lawson, Andrea Römmele, and Georgi Karasimeonov. Westport, CT: Praeger.
- Rose, Richard, and Ian McAllister 1990. *The Loyalties*

- of Voters: A Lifetime Learning Model*. London: Sage.
- Sartori, Giovanni 1970. "Concept Misformation in Comparative Politics." *American Political Science Review* 64(4): 1033-1053.
- Scully, Timothy R. 1995. "Reconstructing Party Politics in Chile." In *Building Democratic Institutions: Party Systems in Latin America*. eds. Scott Mainwaring and Timothy R. Scully. Stanford, CA: Stanford University Press.
- Vatter, Adrian 2003. "Legislative Party Fragmentation in Swiss Cantons: A Function of Cleavage Structures or Electoral Institutions?" *Party Politics* 9(4): 445-461.
- Zuckerman, Alan S. 1982. "New Approaches to Political Cleavage: A Theoretical Introduction."

Comparative Political Studies 15(2): 131-144.

<インターネット>

Collier, Paul, and Anke Hoeffler 2001. "Greed and Grievance in Civil War." *World Bank*. <http://econ.worldbank.org/programs/library>.

[付記] 本稿の修正にあたっては、2名の匿名レフェリーより有益なコメントをいただいた。記して感謝したい。

(アジア経済研究所地域研究センター, 2005年10月18日受付, 2006年2月7日レフェリーの審査を経て掲載決定)